

優良賞

## 出来る事と出来ない事

川田谷小学校六年 三浦 快斗

ぼくは、自分の限界が大人になるまでに理解できるようになりたいです。

今の自分は、子供だから可能性はまだ十分あると思います。でも、大人になるにつれ、制限は大きくなると思います。すると、自分の限界が見えてきます。限界は、できれば知りたくないものです。ですが、人には必ず限界があります。人ならば、その限界を超えたいと思います。

実際、ぼくもそんな経験がありました。それは、夏休みの晴れた日にありました。運動として、毎日走れる日は走っていました。その日は、気温が高く、むし暑さもあり、走っているときつい状態になるくらいでした。それでも何とか家まで着き、ストレッチで体

を休ませました。すると、兄が、「どこまで行ってきたか」と、聞いてきました。ぼくは、いつも通り、走ってきたコースを言いました。そしたら、兄に自分がストイックであると言われました。

ストイックの意味は分かりませんが、走り過ぎだと言われていることは、分かりました。正直、その時はなぜストイックと言われたか、なぜ走り過ぎと言われたか分かりませんでした。でも兄が理由を教えてくださいました。それは、

「こんな暑い日は、少しくらい距離を縮めて、自分の体の事を知ってあげな。」

それを言われた時、意味が分かった気がしました。それは、「限界を知らずに、限界を超える事はできない。」

そんな意味だった気がしました。それから、自分が最大限できることを考えました。こうして自分の限界を理解し、大人になった時に、最大限、自分のできることをできるようにし

たいと思いました。今のは大人になるまでの、あくまで理想論ですが、もしこんな大人になったら、己の力がとても良くなる気がします。

今の事は、大人になるまでの話なので、今の頑張りを控えめにしてくださいとは言いません。それに、限界は、他人が決めるものでもないし、自分ができ事に決めるものでもないです。ぼくも今、限界の上をいこうとも実際に思っているので、現在、体力づくり中です。

大人の時の限界の話をするより先に、子供の時に自分の限界をなるべく高くしてから、大人の時の限界の話をする方が良いです。これをことわざにすると、

「鉄は熱いうちに打て。」

先に話していた、大人になった時の話は、ことわざの中での冷めた鉄です。今ぼくは子供なので、まだ熱い鉄です。その熱い時から、冷めるとき大人の時まで、どれだけ立派な鉄になるかは、今の時の地道な努力の頑張り・努力しだいです。子供の時間は、大人の

時間より短い。これと同じで、鉄も熱い時間の方が、冷めている時間の方より短いです。

つまり、今ぼくが言いたいのは、冷めた時、人生のバリエーションを多く選たくするには、熱い時に努力をして頑張り、大人になった時、過去の努力を最大限生かした方が、人生悪くないものになると思う、ということですよ。

ここまで言ってきた事は、理想と結果で、結果が理想につながったなら、ぼくは、限界を上手く生かせそうです。だから、先の人生が少し楽しみです。